

# 徳山ダム 長良川放流に制限案

## 国交省など検討 「渇水時は流す」

徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を長良川や木曾川に流す連絡導水路計画について、国土交通省と水資源機構、愛知、岐阜、三重の3県と名古屋市は7日、通常は長良川に流さない新しい案を加えて検討することを決めた。水質に不安のあるダム水の長良川放流に地元で反発が広がることなどに配慮した。ただし、「渇水時は流さなければならぬ」として、導水路建設の計画は変えない。十分な環境影響調査を求め、岐阜県は「提案を了承しただけ。これならいい、と言ったわけではない」（河川課）としており、決着までには、なお曲折がありそうだ。

（星野典久、伊藤智章）



揖斐川上流の徳山ダムの水を使うには、愛知県などの取水施設が集中する木曾川に水を流す必要がある。07年8月の計画は、ダムで確保した最大毎秒20トの水のうち、木曾川へ直接放流するのは15・3トにとどめた。残り4・7トは長良川を経由し、岐阜県羽島市付近で木曾川に流す。国交省などは「長良川の環境を改善するための一部放流」と説明していたが、「清流長良川を壊すな」と市民の反対署名が2万人以上集まり、岐阜県も環境影響調査について119項目の意見を出していた。

新案は長良川放流分の4・7トのうち、名古屋市の工業

用水分0・7トを木曾川への直接放流に回すというもの。残り4トは異常渇水時にのみ流し、普段は流さない。従来案に加え、検討を進める。異例の新案追加だが、中部地方整備局は「長良川のプランドイメーჯに配慮した」（河川環境課）としている。

ただ、渇水時なら放流の影響はないのか、木曾川なら放流してもいいのか、そもそも890億円もかけるほどの必要があるのか、といった市民の疑問は解消されていない。名古屋や愛知県には、導水路の下流設備を増強し、長良川河口堰の水も取れる兼用施設にしたいという意向がある。しかし、これも河口堰から10キロ以上上流で水を取るため、環境への影響を心配する声がある。古田岐阜県知事も「将来にわたって認めることはない」と議会で答弁しており、調整がついていない。